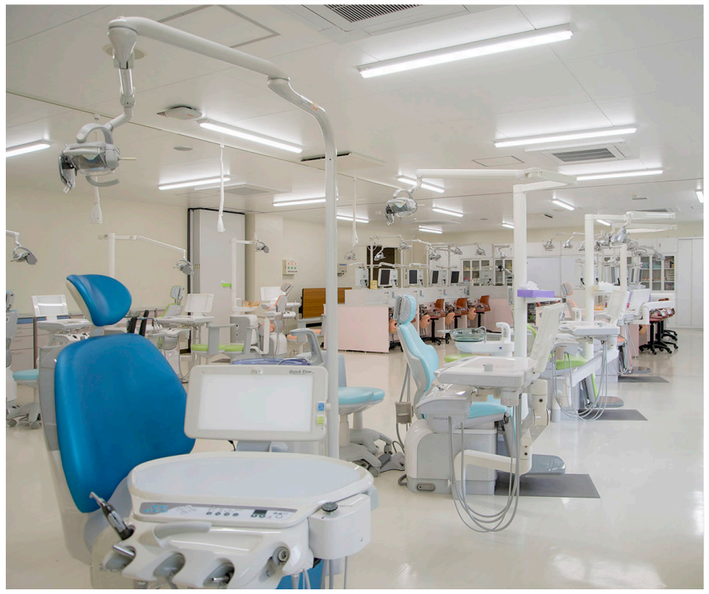
歯学部

徳島大学歯学部歯学科は、国立大学歯学部としては全国で 8 番目、四国地区では初めての歯学部歯学科として 1976（昭和 51）年に設置された。2007（平成 19）年には、歯学科に加え、歯科衛生士と社会福祉士の国家資格が取得できる口腔保健学科を設置し、全国に先駆けて歯科医学と福祉を融合して学ぶことのできる歯学部となった。

歯学部は、歯科医師が少なく高齢者の多い四国地区を憂慮し、「地域歯科医療に貢献できる人材を養成すること」を目的として創設された。歯学科は、基本理念として「歯科領域にとどまらない広い知識と最新の治療技術を身につけるとともに、医療人として必要な倫理を備えた歯科医師の育成をめざす」ことを掲げている。6 年間の一貫教育では、教養教育で培われた基礎科学の知見、日本語・外国語でのコミュニケーション能力や生命に対する倫理的視点をベースとし、基礎歯学・臨床歯学を繰り返し教育するらせん型の教育カリキュラムを組み、知識・技術の確実な定着と深化を目指している。

口腔保健学科は、高齢化社会における社会的ニーズである健康長寿推進に寄与するため、4 年制の大学としては全国で 4 番目に設置された。基本理念は「口腔保健及び福祉の専門的立場から健康長寿の推進に貢献し、専門分野の教育、研究及び臨床における指導的役割を担う人材の育成をめざす」ことである。口腔保健は全身の健康維持に深く関与しているが、超高齢社会を迎えた現在、医療・保健・福祉の連携したチームケアを他の関連職種と協力して進めることが肝要である。4 年間の学部教育では、1 年次の後期に大学病院や学外福祉施設で体験型の早期臨床実習を実施することにより、社会人・医療人として保健福祉の専門的立場に身を置くことについて、また、関連職種と連携して健康長寿社会の実現に貢献することへの自覚を入学当初から促している。4 年間の教育終了時には、歯科衛生士国家試験の受験資格を得られるほか、自由選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得られるコースを設けている。

また歯学部では、国際交流事業を活発に行っている。2009（平成 21）年 4 月には 11 校（大学間 7 校、部局間 4 校）だった交流協定校を、2019（平成 31）年 4 月現在までに 22 校（大学間 10 校、部局間 11 校）まで拡大し、教員・学生間の交流等に力を注いでいる。インドネシアの複数の交流協定校とともに企画した ASEAN plus and TOKUSHIMA Joint International Conference は、2012（平成 24）年 12 月の第 1 回開催以降、約 2 年に 1 度の実施を重ね、2019（令和元）年 11 月にはインドネシアのハントゥアー大学の主催で第 5 回目を開催した。国際交流事業の促進を通じ、歯科医師や研究者として世界水準の知見と技能を有する人材を育成するため、グローバルな組織風土を醸成している。